

科 目 名	保健医療分野に関する理論と支援の展開		副題		
担 当 者	伊東秀幸				
開 講 期	前期	単位数	2 単位	配当年次	1年
授業の概要	テーマは保健医療分野に関わる公認心理師の実践である。心の問題で不適応に陥っている人、心理的葛藤や家族関係・対人関係の困難から臨床心理学的な症状や問題を呈している人、慢性疾患を抱えた人、災害・犯罪被害等で心理的ケアが必要な人、心神喪失のため犯罪に至ってしまった人への臨床心理学的支援に関わる理論の獲得と、病院・診療所（精神科、心療内科等）、保健所、精神保健センター等における、心理査定、心理療法に加え、デイケアやコンサルテーションなどの活動内容、プロセスについて理解を深める。				
授業のねらい・到達目標	保健医療分野の機関において、公認心理師として適切な実践ができるようになるため、機関と心理学的知識と技術を結びつけられるようにすることが授業の目的であり、以下の5点を到達目標とする。 ・保健医療機関の機能を説明できる。 ・保健医療機関の対象者を説明できる。 ・保健医療機関の公認心理師の役割を説明できる。 ・保健医療機関で必要な知識、技術を説明できる。 ・対象者への適切な支援を考察できる。				
授業の方法・授業計画					
1	授業の進め方について				
2	保健医療分野の機関について				
3	精神科病院における公認心理師の役割				
4	精神科病院の事例検討				
5	精神科クリニックにおける公認心理師の役割				
6	精神科クリニックの事例検討				
7	精神科デイケアにおける公認心理師の役割				
8	精神科デイケアの事例検討				
9	医療観察病棟における公認心理師の役割				
10	医療観察病棟の事例検討				
11	保健所・保健センターにおける公認心理師の役割				
12	保健所・保健センターの事例検討				
13	精神保健福祉センターにおける公認心理師の役割				
14	精神保健福祉センターの事例検討				
15	コンサルテーションの方法				
期末					
授業に関する連絡	本授業では、講義と事例検討によって理解を深める。				
評価方法及び評価基準	レポート（70％）、発言や討議への参加度（30％）				
事前・事後学習の内容	事前としては、各回のテーマについて文献などにより下調べをしておくこと。 事後としては、授業内で配布したプリント等により、知識を整理しておくこと。				
履修上の注意	履修者は、積極的に授業に参加すること。				
テキスト	特になし、授業ごとにプリントを配布する。				
参考文献	「精神医学的面接」 みすず書房 「解決のための面接技法」 金剛出版				